

[番組名] FMぐんま「ユウガチャ！」

[放送日] 2016年1月12日

[テーマ] 2016年の県内経済の展望

(パーソナリティ) 昨年、2015年を振り返ると、県内経済はどんな一年だったでしょうか。

(神山支店長) 日銀前橋支店の公式的な景気判断を申し上げますと、「県内景気は、緩やかな回復基調にある」です。でも、「景気は回復していると言うけど、そうした実感はない」って、皆さんそうおっしゃるんです。これは、もっともなご指摘です。経済は2008年に起こった国際的な金融危機、いわゆるリーマンショック後の未曾有の落ち込みからは何とか持ち直してきているのですが、経済活動の水準はまだまだ高いとは言えないんです。多くの方が回復を実感するには、水準がもう少し高まらないといけません。日銀は消費者物価の前年比上昇率2%の実現を目指して金融政策を運営しておりますが、実現も「なお道半ば」なんです。

実は経済活動を評価する視点には、「水準」と「変化」の二つがあります。政府や日銀が示している景気判断は「変化」なんです。現在は政府、日銀ともいずれも「緩やかな回復」となっていますが、これは、経済の水準が徐々に上がっているという「変化」のみを言及しているんです。一方、普段我々が関心を持つのは、景気が良いのか、悪いのか、その「水準」ですよね。政府や日銀の公式見解は「水準」については言及していません。現状は、経済活動の水準がまだ低いことを言っていないので、やや楽観的に聞こえてしまうように感じています。より丁寧な説明をやっていかないといけないということだと思います。

(パーソナリティ) 経済活動の評価には「水準」と「変化」があるということですが、そこを踏まえたうえで、昨年の県内の経済はいかがでしたか。

(神山支店長) 何と説明するかは簡単ではないのですが、私は外で説明する時、取り敢えず、「群馬の逆襲」だと言っています。

(パーソナリティ) 「群馬の逆襲」とは、どこかで聞いたことのあるタイトルですね。

(神山支店長)           そうです。「群馬の逆襲」というのは、ご存じの方も多いと思いますが、ご当地本のタイトルです。この本は、魅力度ランキングが47都道府県で最下位になってしまったことを受け、群馬県の魅力を国民に再確認してもらい、ランクを引き上げていこうという内容になっています。

                          どういう意味で「群馬の逆襲」なのかというと、県内の製造業の活動は、先ほど申し上げたように、リーマンショックを受けて大きく落ち込んでいました。しかし、その後は順調に回復を続け、昨年は製造業の活動を示す鉱工業生産指数が既往ピークを更新するに至っております。一方、全国の数字をみますと、リーマンショック直後の落ち込みは群馬県ほどではなかったのですが、現在もさほど持ち直しておらず、既往ピークの水準をなお1割下回っております。こうしてみますと、当県製造業の力強さはかなり際立っています。だから、「群馬の逆襲」ということなのです。

(パーソナリティ)           回復が早かったということなんですね。

(神山支店長)           はい、力強い回復だったということです。一方、非製造業の活動については「お前はまだグンマを知らない」ということを言っています。

(パーソナリティ)           こちらが群馬の作家さんによるご当地漫画のタイトルですね。

(神山支店長)           はい。どういうことかと申しますと、昨年、訪日外国人旅行者の増加、いわゆるインバウンド需要の増加から、小売や宿泊をはじめとして非製造業の業績が大きく押し上げられました。現在、海外から日本を訪れる外国人観光客の数は年間2000万人を超えようという勢いになっています。「爆買い」という言葉は、昨年の流行語大賞にもなりました。

                          ところが、インバウンド需要の恩恵は大都市部に集中しており、外国人観光客の群馬県の訪問率は1%に満たない状況です。国際空港が県内にないので、仕方がないという見方もありますが、外国人観光客が求めているのは、「自然・景勝地観光」、「温泉入浴」、「旅館に宿泊」、「日本の酒を飲むこと」、「スキー・スノーボード」だったりするのです。これらは全て群馬県に揃っております。当地でも、宝川温泉など、既に海外でも有名で、外国人が殺到して

いるところもあるのですが、群馬県には埋もれている魅力的な観光スポットがまだまだ沢山あります。もっと群馬県の知名度を引き上げていかなくてはならない。ということで、「お前はまだグンマを知らない」ということであります。

(パーソナリティ) 印象的なキーワードで県内の2015年の経済を振り返りましたが、では、気になる、今年、2016年の県内経済や景気などの見通しはいかがでしょうか。

(神山支店長) 年初から世界の金融市場が不安定な動きを続けておりますけれども、県内景気については緩やかな回復基調を続けていく可能性が高いと考えています。群馬県は本州のおよそ中心に位置しますため、古くから交通の要所でありました。現在は高速道路が縦横に走り、首都圏からのアクセスは非常に良くなっています。先ほど申し上げたように製造業の活動が順調に高まってきたのは、群馬県が充実した高速交通網、一大消費地である首都圏への近接性といった点に加えまして、自然災害リスクの低さといった強みも持っており、東日本大震災後、多くの企業が、生産拠点の集約地として群馬県を選んできたことが製造業の活動を押し上げてきたとみています。そして、そこで作られた製品は、海なし県である当県から全世界に輸出されています。非製造業についてですが、実は小売関係では、群馬県の企業で全国展開を行っている先が沢山あります。売上ランキングをみますと、当地の企業、例えばヤマダ電機さんやベシアさんなどが、全国上位にランクインしています。当地ではインバウンド需要の取り込みがまだまだだということを申し上げましたが、群馬県企業は県外でインバウンド需要をしっかりと取り込んでいたりするのです。

(パーソナリティ) 県外でインバウンドを取り込んでいる状況なのですね。

(神山支店長) 群馬県企業は、外に出ていくのが非常に得意なのです。県内にとどまることがない。「群馬の逆襲」はまだまだ続くと考えています。そして、企業収益がしっかりと増加を続けるもとで設備投資が引き続き増える、家計所得が増えるもとで個人消費も引き続き増えるといったように、企業、家計それぞれにおいて、所得から支出への前向きな循環メカニズムが続くのではないのでしょうか。

なので、2016年の県内景気も緩やかな回復基調を続けていく可能性が高いと考えています。

(パーソナリティ) 景気回復については一部の企業のみで、中小企業とか地方や個人ではまだまだという声もありますが、広がりを見せていくということでしょうか。

(神山支店長) そうですね。当初、景気回復は、一部大企業の収益の回復にとどまっていた面があります。昨年は、中小企業も含めて、企業収益がはっきりと改善してきました。本年はいよいよ家計の所得もしっかり増えるという、より重要な局面に入っていきます。経済の水準が徐々に高まっていく中で、人手不足の一段の強まりが明確化してきており、人手確保のために賃上げも致し方ないと判断する企業が増えてきております。勿論、こうした賃上げは、将来的には当地の企業の競争力を削ぎかねない面も持ちます。ですので、企業は、女性や高齢者の活用、設備投資による生産性向上など、人手不足への対応を一段と進めていくことになると思います。そうした前向きな取り組みが、景気回復の動きをよりはっきりと、より広がりのあるものにしていくと考えています。

(パーソナリティ) この先の経済の動きについては、プラスの部分もありながら、2017年4月の消費税10%などのマイナスの部分もあり、色々な変化があるように思いますが、県民の皆さんは豊かでありたい、安定した生活を送りたいと思う方も多いと思いますが、そんな皆さんにアドバイスはありますか。

(神山支店長) 難しい質問なのですが、我々日頃行っている消費という行動は、ありふれた、大して重要ではない行為のように思いがちですが、少し見方を変えれば、非常に重要な選択だったり致します。例えば、この店で自分たちが消費するかどうかで、この店が今後も残るかどうかが決まってしまうということがある訳です。

昨年注目されたキーワードのなかに「ミニマリスト」という言葉があり、私自身はこの言葉が非常に気になっています。所有物を必要最小限に絞り込むことで、時間や心に余裕がある生活を送るということで、テレビの映像などでみますと、ミニマリストなる方が何もモノがない伽藍同の部屋に座っていたりして、これはとても真似で

きないなと思ってしまうのですが、実際のミニマリストとは、自分の価値基準に合わないものにはお金を使わないけれども、逆に価値基準に合うものにはしっかりとお金を使う。特に「大切な時間」にはお金を使うことを惜しまない人々のことを言うらしいです。そういう意味では、純粋なミニマリストとまではいかないけれども、多くの消費者の行動は「モノ」から「コト」に移ってきているように思います。今の若者は以前ほどクルマなどに関心を持たなくなりましたし、それより上の世代でも欲しいものは既に持っているという人が沢山います。そのような人でも、ハレの日(非日常)を晴れやかに過ごすため、ちょっとぜいたくをしてみようとする訳です。

自分の価値基準に合わないものにはお金を使わないけれども、逆に価値基準に合うものにはしっかりとお金を使う。これを実践していきたいですね。他に安い店があるから、そこへ行くということではなく、この店の雰囲気が好きだから、そして、この店を残したいからと、多少値段が高くて、自分の価値基準に合った店で消費していきたい。そして、そうした人が増えてほしい。そういう消費者が増えてくれば、地域経済って自然と立ち直ってくるように思います。バーゲンも良いけど、安くなっているからって、そんなに沢山買ってどうします？それよりも、最良の店を持ちたい。皆さんにも持ってもらいたい。私は群馬にやってくるから、地元の店ばかりで買い物しています。理由は一つ。全国展開のところよりも、地元のお店に頑張ってもらいたい、素敵なお店をたくさん残していきたいと思っているからです。勿論、経済が悪い時には、そんなこと言っていられないかも知れません。懐が寂しくなれば、一円でも安い店に行かねばと思うのはきわめて自然なことです。でも、経済は少しずつ良くなって、久しぶりの賃上げも実現しているところです。そうした経済の状況をこれからも長く続け、消費者の選択をより充実したものにしていきたい。日本銀行もしっかり頑張って日本経済のかじ取りをしていきたいと思っています。

(パーソナリティ) 今年の県内の展望といろいろな消費のアドバイスをうかがいました。ありがとうございました。